

平成17年度 一般会計当初予算

～人々が織りなす元気で快適な活力あるまちを目指して～

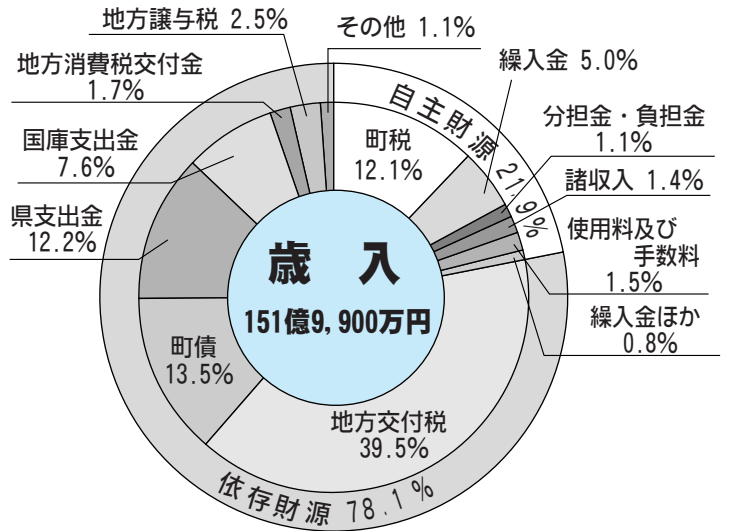
151億9,900万円 (前年度比4.3%減)

平成17年3月22日に合併した本町の初めての年間予算である平成17年度の当初予算額は、151億9,900万円、合併3町の平成16年度当初予算額157億1,136万7千円(一部事務組合分は除く)に対し、4.3%の減となりました。

国・地方を取り巻く財政環境は「三位一体改革」や県財政の「非常事態宣言」に見るようにかつてない厳しい状況にあります。そのため限られた中での予算編成となりましたが、公平感と一体感のあるまちづくりを進めてまいります。

歳入 (入るお金)

歳入の主なものとして、皆さんに納めていただく町税(12.1%)のほか、国から交付される地方交付税(39.5%)、国県支出金(合併補助金含む)(19.8%)、借入金である町債(13.5%)などが多くなっています。しかし近年では、国県の財政も厳しい状況から、地方への補助金・交付金などが減少してきており、その分を地方が借金(町債)や貯金(基金)を下ろして歳入を賄っているという状況です。



自主財源と依存財源

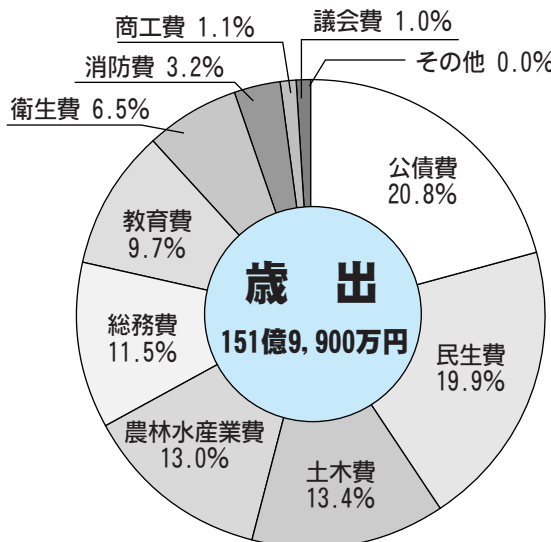
自分の町で賄っている収入(主に町税)は、33億2,567万7千円で、全体の21.9%、逆に国県補助金などに依存している財源は、118億7,332万3千円で78.1%となっており、国県の施策の動向に左右されやすい状況にあります。

借入金 (町債)

建設事業の財源や歳入の不足を補うため借り入れる町債は、20億5,230万円となっています。前年度の当初予算に比較しますと、11億900万円の減となっています。

歳出 (使うお金)

歳出の費目ごとの割合は、公債費(借入金の返済金)、民生費(社会福祉費関係)、土木費、農林水産業費、総務費などの順で予算に占める割合が高くなっています。今後、国県の補助事業の採択や確定に伴う追加事業、自然的要因に左右される災害復旧事業などの補正が見込まれます。



借金の返済金 (公債費)

平成16年度末における借入金の残高は、244億851万5千円となり、年間予算額を超える大きな金額となっています。これに対する年間の返済額は31億6,193万9千円となりますが、このうち約50%程度は交付税が国から交付されます。